

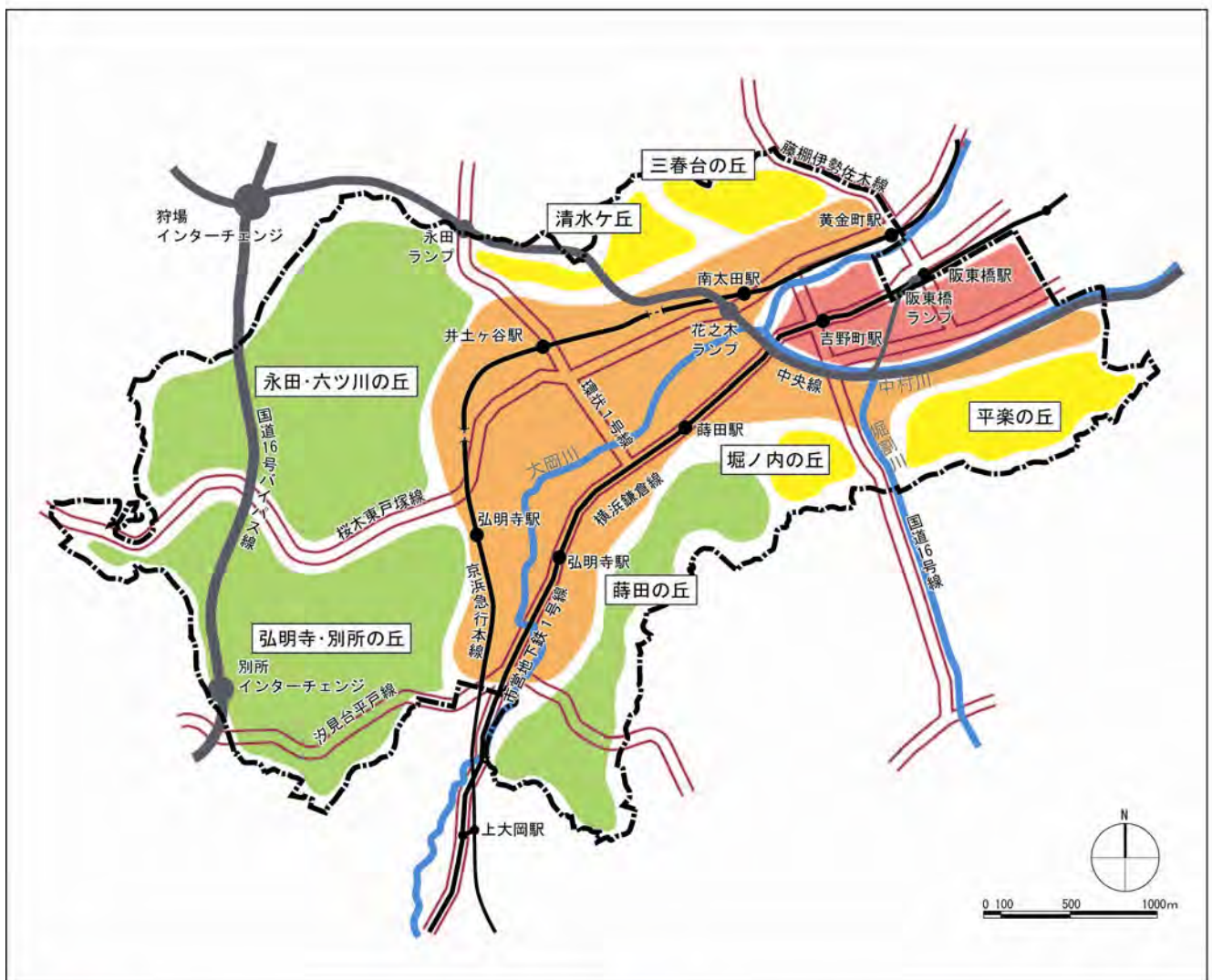
2. 南区の成り立ち

～開港以来の歴史を背景に個性的な地域特性を持つ～

①市街地の基本的特徴

南区は、開港以来の市街化の歴史とともに、区内の地域特性が形づくられてきました。大きく分けると、大岡川などの川沿いに早くから開けた「川のまち」と、住宅地の広がる「丘のまち」に分かれます。

さらに分けると、「川のまち」は、明治時代はじめから開発の進んだ旧「吉田新田」地域と、主に明治時代中期から大正時代にかけて開発された大岡川沿いの平地部で構成されています。また「丘のまち」は、おおむね、比較的早くから住宅地として開けた4つの丘(三春台の丘、清水ヶ丘、堀ノ内の丘、平楽の丘)と、昭和30年代以降に開発された3つの丘(永田・六ツ川の丘、弘明寺・別所の丘、蒔田の丘)によって構成されています。



■川のまち



旧「吉田新田」区域
・明治時代はじめに最も早くから市街化が進んだ埋立地



平地部の市街地
・早くから市街化が進んだ河川に沿った平地部

■丘のまち



三春台の丘、清水ヶ丘、堀ノ内の丘、平楽の丘
・比較的早くから市街化した住宅地



永田・六ツ川の丘、弘明寺・別所の丘、蒔田の丘
・昭和30年代以降開発された住宅地

②市街地形成の歴史

1) 江戸時代(大岡川沿いの農村と「吉田新田」)

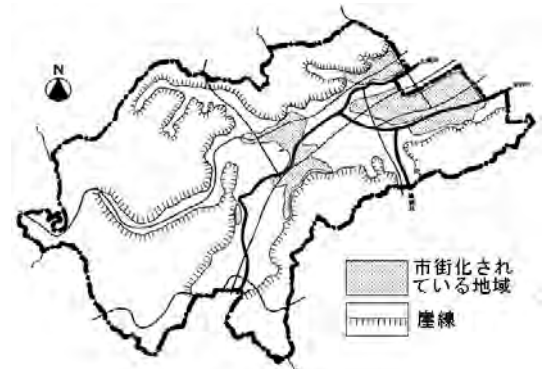
南区は武蔵国久良岐郡の一部で、農業が中心の村々でした。中央を流れる大岡川は蛇行の多い川で、自然の恵みをもたらすととも大雨のたびに氾濫し、人々を困らせていました。1656年に江戸の商人吉田勘兵衛が大岡川河口を新田として埋め立てる許可を江戸幕府から受け、1667年に完成させました。新田は「吉田新田」と名付けられました。

2) 横浜開港～明治時代(吉田新田の開発とその周辺の市街化)

横浜港の開港後、文明開化とともに新しい文化・技術・産業などが紹介され普及しました。1873(明治6年)年には現在の南区万世町で日本で初めてせっけんが製造されました。また、横浜で最初の小学校が開設され、そのうちの3校が南区内につくられました(大岡・石川・太田小学校)。吉田新田は、港町よこはまの後背地として市街化し始め、人口増加も目立ってきました。

1882年(明治15年)には、横浜の貿易商人たちが後継者育成のために、現在の市立横浜商業高等学校の前身になる横浜商法学校を創立しました。このころになると、吉田新田の周辺平地部にも市街化が進行しました。その他、蒔田付近にはまとまった集落がありましたが、平地部はほとんど水田で、丘陵部は市街化されませんでした。

【明治15年頃の市街化の状況】



3) 大正時代～戦前(鎌倉街道沿道の市街化と関東大震災)

1913年(大正2年)に、国内産業の奨励と貿易の拡大を進めるため、蒔田地区で「横浜勸業共進会」(※)が開かれました。共進会の会場跡地には、その後工場の進出、住宅化が進められました。1914年(大正3年)に路面電車が弘明寺まで開通すると、区内は鎌倉街道沿いを中心に市街化が進みました。1921年(大正10年)ころになると、吉田新田に近い八幡町、平楽、唐沢付近では丘陵部への市街化も進行しました。

※横浜勸業共進会：神奈川県と横浜市の連合主催により、神奈川県下の生産品及び全国の輸出貿易品を陳列し、市民に公開した催し。

II. 南区の現状と課題

開港以来発展を続けてきた南区のまちも、1923年(大正12年)の関東大震災により大きな被害を受けました。しかし、その後の復興により鎌倉街道沿い(蒔田公園付近～地下鉄弘明寺駅付近)が区画整理され、現在の街並みの原型ができあがりました。また、環状1号線(保土ヶ谷宮元線)や、桜木東戸塚線(平戸桜木町線)など主要な道路の原型もこの時にできました。

1927年(昭和2年)には、横浜市の区制が施行され、現在の南区は中区の一部となりました。1930年(昭和5年)湘南電鉄(現在の京浜急行)が開通しました。

【大正10年頃の市街化の状況】



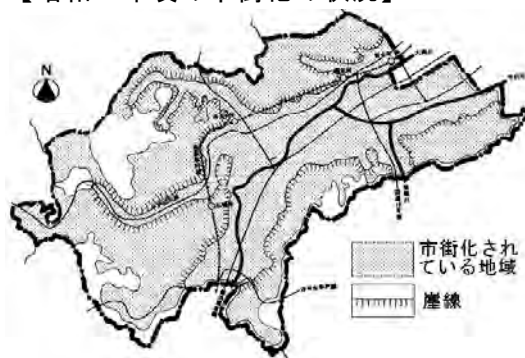
4) 戦中～戦後(南区の誕生～高度経済成長期の西の丘の開発と人口の急増)

1943年(昭和18年)、第二次世界大戦のさなか、中区から分かれて南区が誕生しました。

商業地と住宅密集地は度重なる空襲に遭い、市内でもっとも大きな被害を受けました。

終戦後には、区内に接收地が広がっていたこともあって、戦後の復興は容易ではありませんでしたが、接收地周辺に商店街ができたり、戦災を免れた弘明寺などでは商店街が繁栄しました。その後の接收解除に伴い、井土ヶ谷下町、南太田、東蒔田町、榎町、中村町などで区画整理が行われ、まちは徐々に整備されました。

【昭和41年頃の市街化の状況】



1960年(昭和35年)頃から、住宅団地ブームが起こり、永田・六ツ川・大岡など区の南西部の開発が行われました。これに伴って人口も急増したために、1969年(昭和44年)には区の南部を港南区として分区しました。南西部の丘陵地の人口増加はその後進み、それに伴って生じた交通渋滞を解消するため路面電車が廃止され、バス輸送に切り替えられました。1972年(昭和47年)には市営地下鉄が伊勢佐木長者町～上大岡間で開通し、区内に4つの駅が設けられました。

5) 現在

区内は、住宅系の土地利用が主体となっていますが、旧「吉田新田」の区域、横浜鎌倉線(鎌倉街道)、桜木東戸塚線、環状1号線などの幹線道路沿道では、商業・業務系の土地利用が比較的多く見られます。

また、幹線道路や鉄道などの都市基盤はおおむね整備され、比較的落ち着いた雰囲気のある区となっています。2003年(平成15年)には、区制60周年をむかえました。

③近年のまちづくり ～この20年の取り組み～

主要な都市基盤施設がおおむね整備され、この20年ほどは、区民が利用する福祉施設やコミュニティ施設の整備、公園やプロムナードなど身近な施設の整備が進められてきました。加えてここ10年ほどは、区民の交流や支え合い活動を支援するため、ソフト面での福祉・コミュニティ施策も推進してきました。

年	都市基盤整備	公共施設整備	緑・自然環境整備	福祉・コミュニティ施策等
【昭和 55 年（1980）：人口 192,020 人 世帯数 63,023 世帯 高齢化率 8.43%】				
S58			■清水ヶ丘公園一部開園	
S59				
S60	●京急弘明寺駅改良工事完成		■大岡川プロムナード完成	
S61				
S62	●万世ポンプ場完成	○南福祉ホームむつみ・横浜青年館開館		
S63	●京急南太田駅改良工事完成		■永田みなみ台公園完成	
H 元	●吉野町ポンプ場完成 ●京急弘明寺～上大岡間立体交差化完成 ●南太田駅駐輪場開設 ●阪東橋駅駐輪場開設	○吉野町市民プラザ開館		
H2	●中央線（首都高狩場線）開通		■清水ヶ丘公園プールオープン ■阪東橋公園開園	
H3		○六ツ川台コミュニティハウス開設 ○こどもログハウス開館		・南区桜まつりスタート
H4	●黄金町駅駐輪場開設	○清水ヶ丘公園体育館開館 ○南図書館開館		・南区健康福祉まつりスタート （いきいきふれあい南なんデー）
H5		○大岡健康プラザ開館 ○特養「白朋苑」開所	■弘明寺公園内に展望台完成	
H6		○永田地区センター開館		・高齢者定期訪問事業スタート
H7			■大岡川親水階段等設置	・南区メディカルセンター訪問看護ステーション開設 ・痴呆性高齢者デイサービスセンター開設 ・中途障害者地域作業所開設 ・南でもみる区探検隊事業スタート ・震災時避難場所運営委員会設立
H8	●京急弘明寺駅にエスカレーター設置	○清水ヶ丘地域ケアプラザ・中部療育センター開館		・ボランティアフォーラムみなみ開設 ・ひまわり訪問看護ステーション開設
H9	●阪東橋駅にエレベーター設置	○永田台コミュニティハウス開設		・南区子ども・家庭支援センターオープン ・デイ銭湯一号館オープン
H10		○三吉演芸場新装オープン	■大岡川河床プロムナード延長	・子育て情報コーナーオープン
H11		○永田地域ケアプラザ開館		
H12	●地下鉄弘明寺駅にエレベーター設置 ●京急井土ヶ谷駅にエスカレーター設置	○六ツ川地域ケアプラザ開館 ○特養「南太田ホーム」開所 ○市民総合医療センターのオープン	■蒔田の森公園開園 ■六ツ川中央公園開園	
H13	●弘明寺商店街アーケード改築、さくら橋設置		■蒔田公園「見晴らしの丘」開園	・区の花「さくら」を発表 ・南区ホームページ開設
H14		○特養「南永田桜樹の森」開所 ○睦コミュニティハウス開設		・南区福祉保健センター開設
【平成 14 年（2002）：人口 196,318 人 世帯数 88,369 世帯 高齢化率 18.7%】				

3. 南区の現状

(1) 自然環境 ～大岡川水系と七つの丘など変化に富んだ地形と環境～

①川沿いの平地部と丘陵地

南区の地形は大きく分けると大岡川沿いの平地部と、その周辺にある丘陵部の二つに分けられます。大岡川沿いの平地部は、大岡川がつくった沖積低地と、江戸時代の新田開発による埋立地とに分けられます。

②市街地を縫う大岡川水系(大岡川、中村川、堀割川)

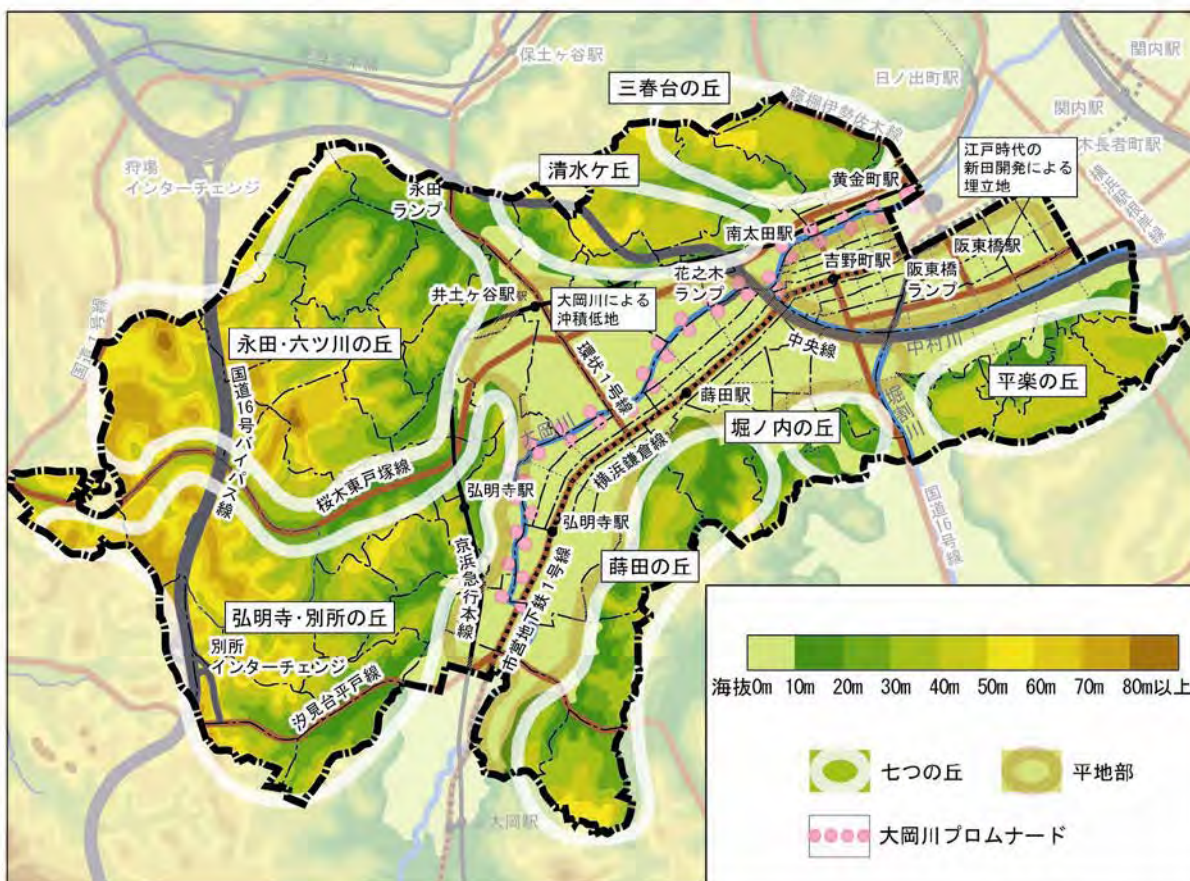
平地部には、区内を縦断する大岡川と、中村川、堀割川が流れています。

1985年(昭和60年)に完成した「大岡川プロムナード」は、それまで市街地に埋もれていた貴重な自然環境を、区民が親しむ南区のまちの背骨として再生されたもので、区民の憩いの場であると同時に南区のシンボリック空間となっています。

③丘陵部の7つの丘

丘陵部は、三春台の丘、清水ヶ丘、永田・六ツ川の丘、弘明寺・別所の丘、蒔田の丘、堀ノ内の丘、平楽の丘、という「七つの丘」と呼ばれる地形によって構成されており、南区の変化のある環境を形づくっています。

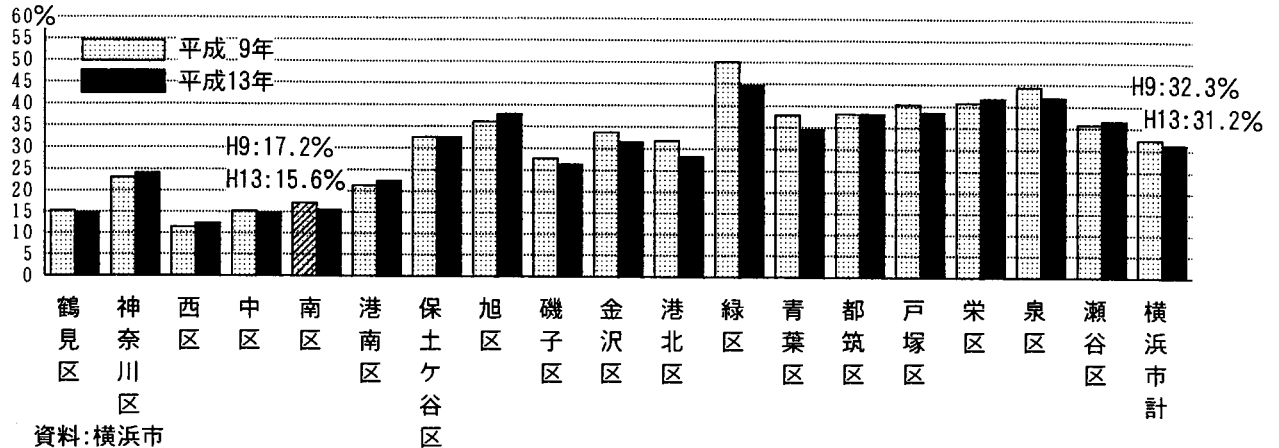
【南区の地形】



④斜面や崖地に残された貴重な緑

台地の崖や丘陵の斜面には貴重な緑が残っています。しかし、緑被率(※)は市内で4番目に低く、「急傾斜地崩壊危険区域」として指定された区域が多いなど、防災的に危険な地域も存在しています。また、斜面地等に残された樹林は、マンション開発等により減少しつつあります。

【緑被率の状況】



(2)人口 ～高齢化の進行と地域社会の変化～

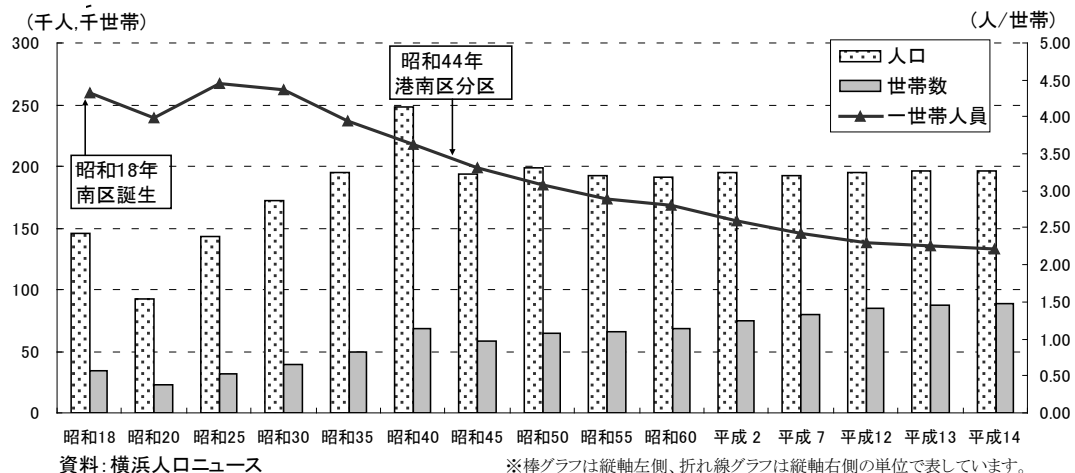
①人口密度の高さと顕著に進む高齢化

南区の人口は、港南区区分後あまり変動していません。ただし、世帯数は大きく増加しています。これは、ひとり暮らしや小人数の世帯が増加したことを示しています。

南区の人口密度は、15,550人/km²(平成15年4月1日現在)と横浜市の18区の中で一番高くなっています。また、人口のうち65歳以上の人の割合を示す高齢化率は、19.0%(平成15年3月31日現在)と、市内で一番高い区になっています。大岡川沿いの平地部や三春台の丘、清水ヶ丘、平楽の丘、堀ノ内の丘など早くから市街化された地域では、高齢化がますます進行しています。また、昭和30年代から住宅地化が進んだ蒔田の丘、弘明寺・別所の丘、永田・六ツ川の丘でも、徐々に高齢化が進んでいます。

また、南区の昼夜間人口比率(※P13)は76.8であり、横浜市内でも低くなっています。これは、区外への就業者や通学者が多いことをあらわしています。

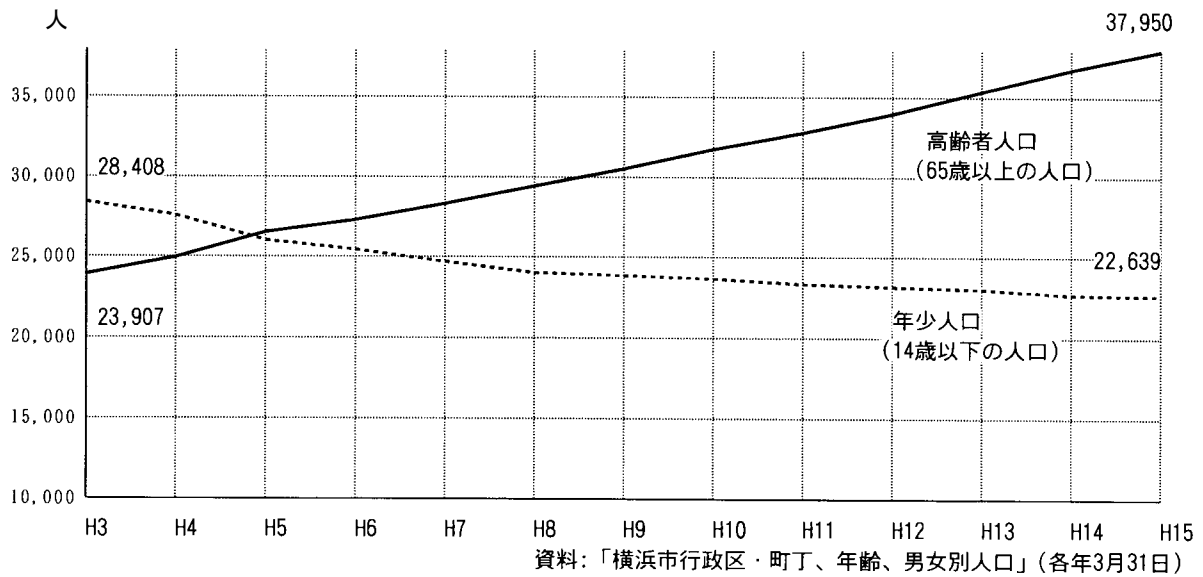
【南区の人口、世帯数の推移】



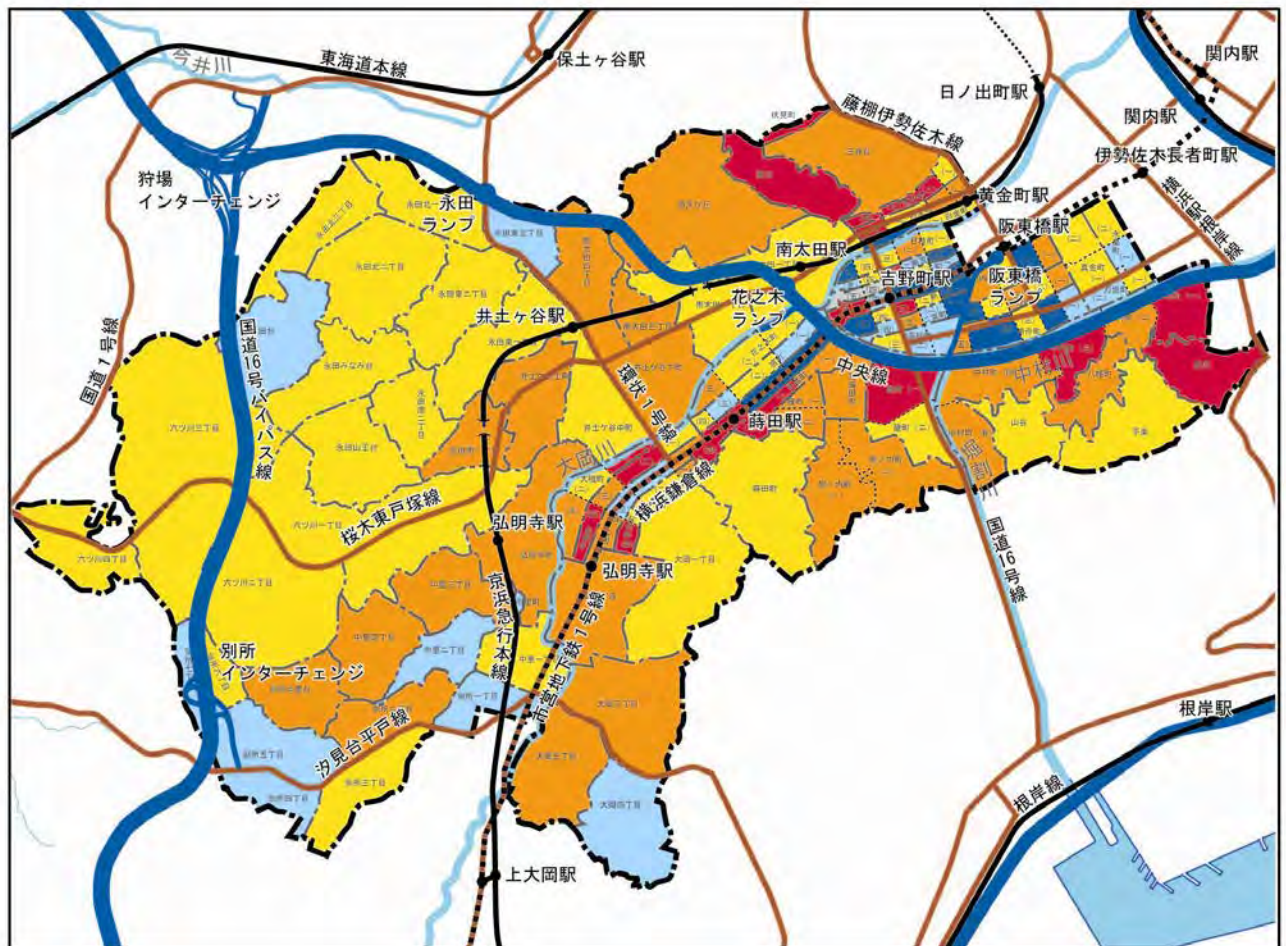
※緑被率：区域面積に占める緑(樹林地、草地など)の割合。航空写真を基に計測する。

II. 南区の現状と課題

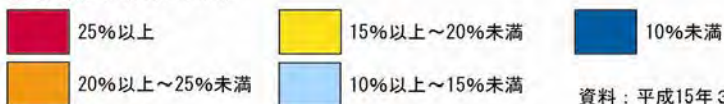
【区内の高齢者人口、年少人口の推移】



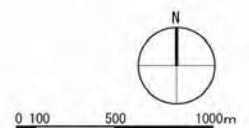
【高齢者の地域別の状況】(65歳以上の人口比率)



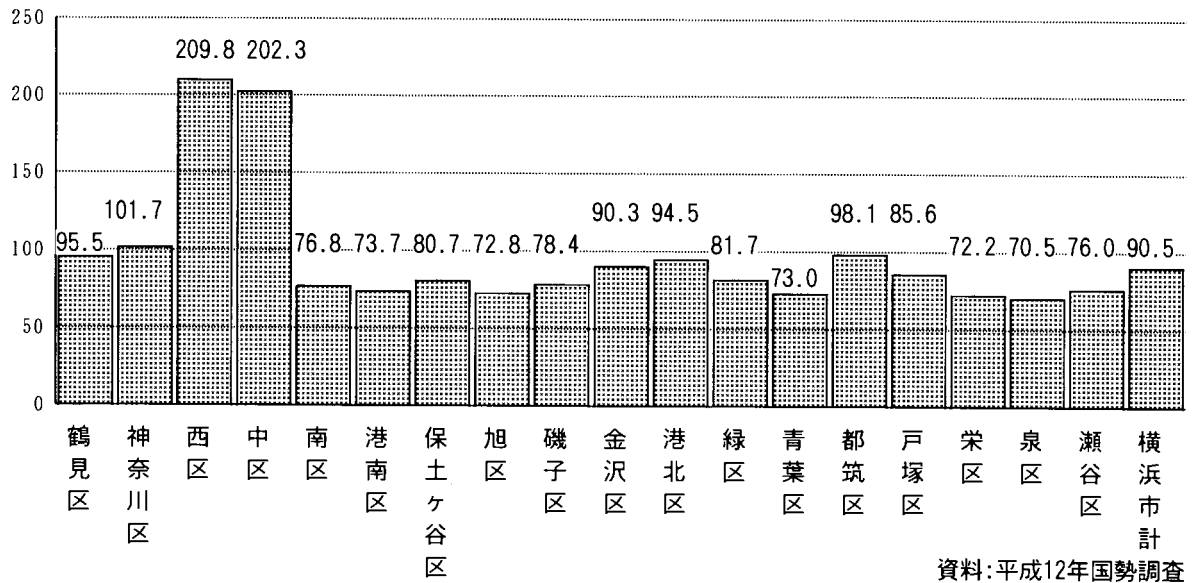
65歳以上の人口比率



資料: 平成15年3月住民基本台帳



【昼夜間人口比率】

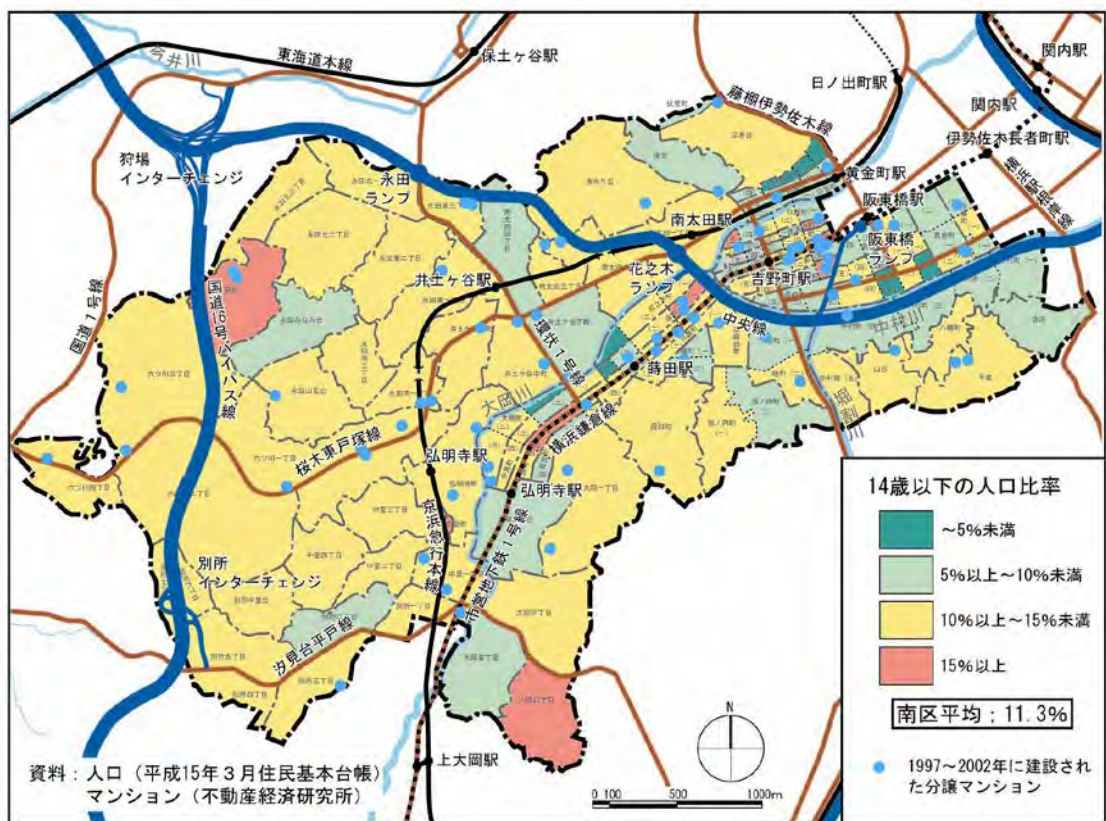


②マンション建設等の増加と人口構成の局所的な変化

近年、旧「吉田新田」区域や鎌倉街道沿い及び斜面地などにはマンションなどの集合住宅の建設が進み、新しい居住者も多くなっています。

そのため、地域によっては比較的若い子育て世代の転入も進んでおり、子育てに関する支援などが新たな課題となりつつあります。

【年少人口比率とマンション等の建設動向】



※昼夜間人口比率: 常住人口(夜間人口)100人当たりの、従業地・通学地による人口(昼間人口)の比率。昼間人口は、常住人口-流出人口+流入人口を示します。

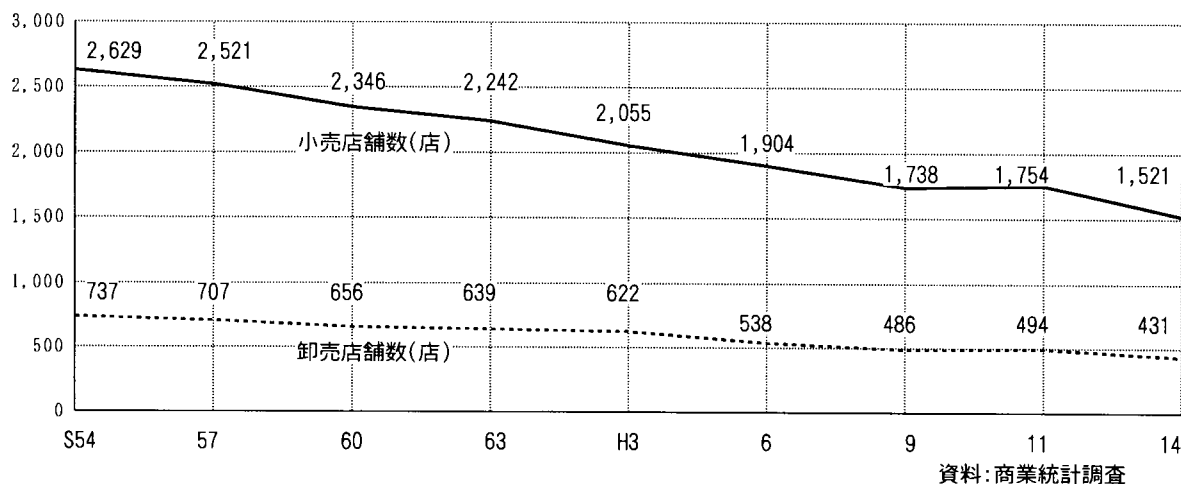
(3) 暮らし ～日常の買い物など生活利便性の高いまち～

① 買い物の便利さなど、区民の満足意識の高さ

身近なところに日用品を扱う商店や、気がねなく入れてくつろげる飲食店も多く、飾らない親しみのある雰囲気の特徴となっている南区は、暮らしやすいまちといえます。買い物等の日常生活についての区民の満足意識も高くなっています。

近年、購買行動の変化や大型店の進出などで、商業活動は全体としてやや停滞傾向にあるものの、地域に根ざした商店街は区民の暮らしやすさにとって貴重な存在です。

【区内の商業の推移】

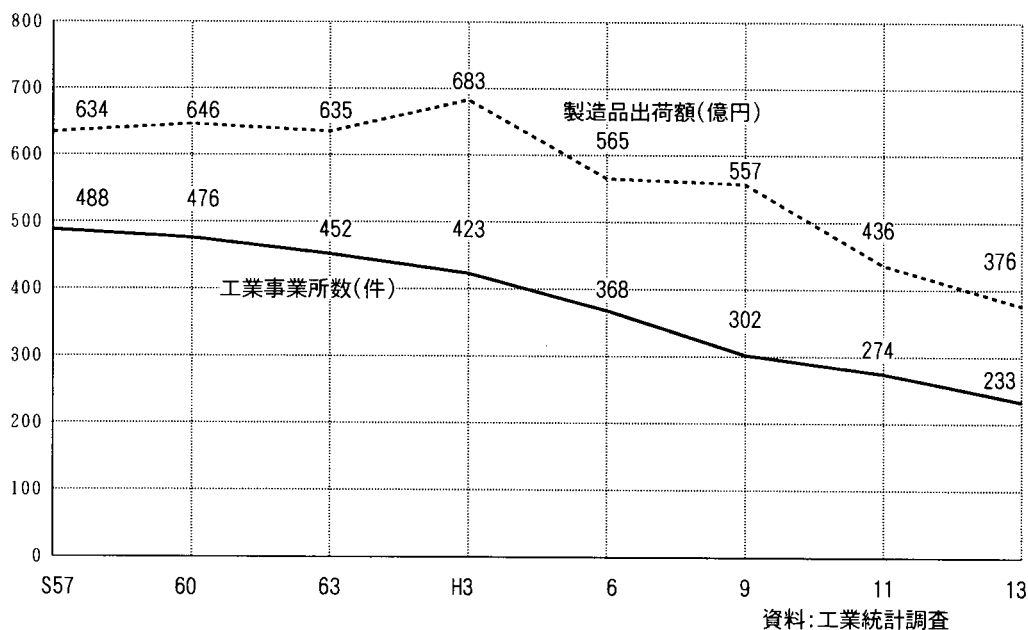


② 南区の職人文化を形づくってきた工業

南区では、中小の工場や企業が多く存在し、腕前を誇る職人が各業種にわたって活躍し、地域に根づいた活動が行われて、南区の職人文化を形づくってきました。

しかし、産業構造の変化や後継者不足、住工混在による操業の難しさなどから、区内の工場は徐々に減少しています。

【区内の工業の推移】



【参考：まちづくりに関する主な指標】

- 面積が小さい：12.63km²(18区中2番目に小さい)
- 区内ほぼ全域が市街化されている(市街化区域の面積割合 99.5%)
- 急傾斜地が多い(急傾斜地崩壊危険区域 70箇所 18区中2位 平成15年3月31日現在)
- 関内・横浜駅周辺の都心、上大岡副都心に近接している
- オープンスペースが少ない(一人あたりの公園面積は18区中18位)
- 密集住宅地が多い
- 狭あい道路が多い(狭あい道路整備促進路線：188路線 平成15年1月1日現在)
- 人口密度が高い：15,550人/km²(18区中1位 平成15年4月1日現在)
- 高齢化率が高い：19.0%(18区中1位 平成15年3月31日現在)



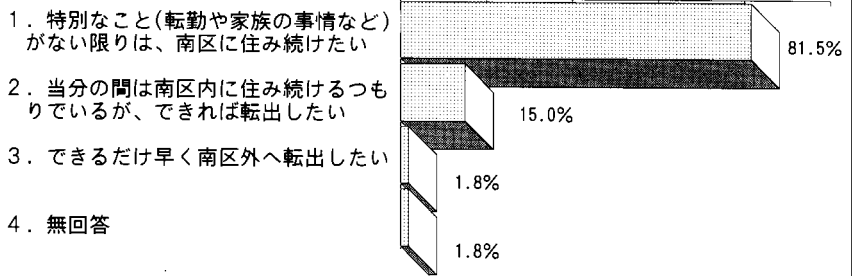
【参考：まちづくりに対する区民の意見】

平成14年2月アンケートより

①南区に住み続けたい人が81%

区民の定住意向は、たいへん高くなっています。

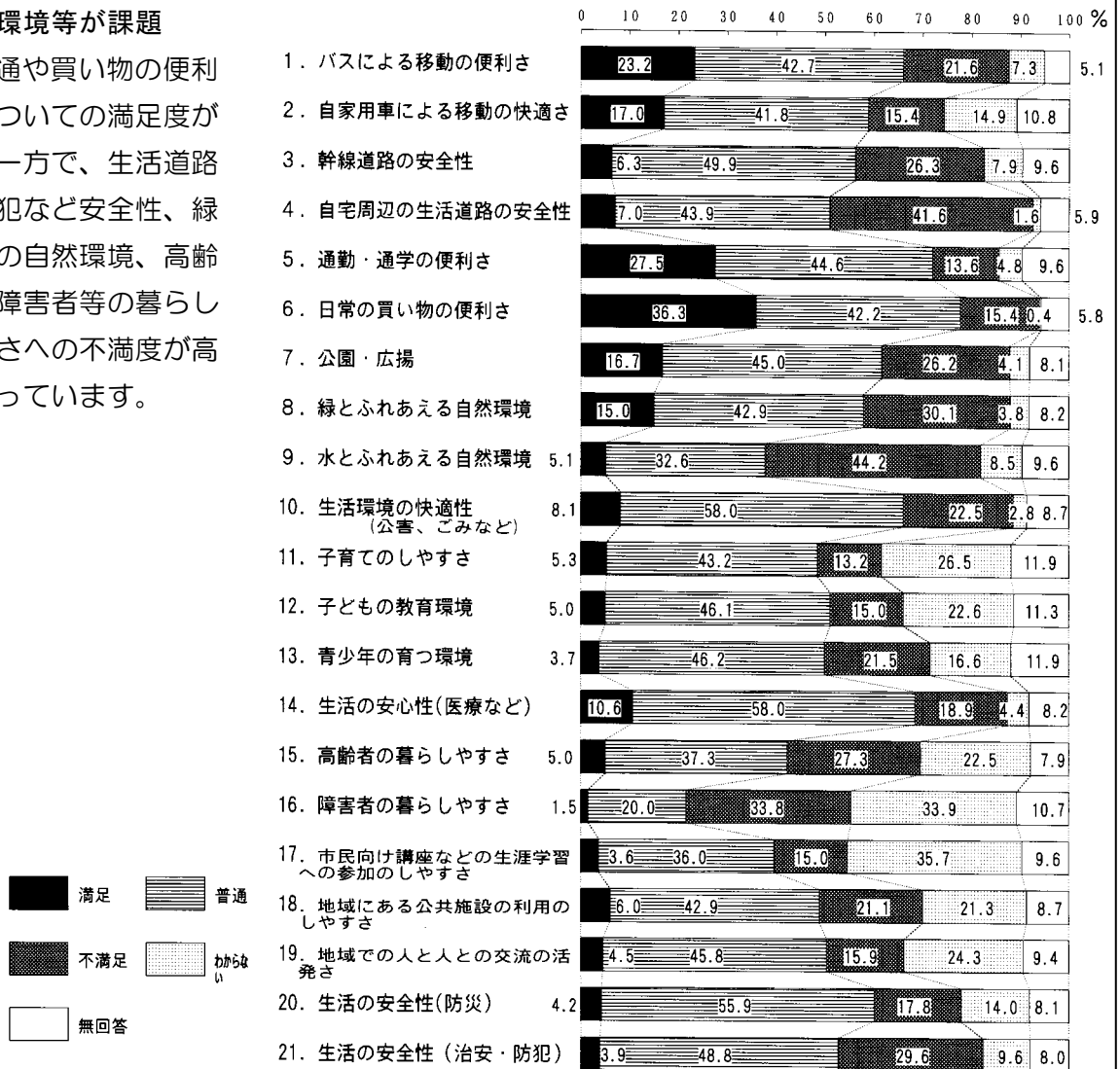
【南区での定住意向について】



②便利さへの評価の一方で、生活の安全性や自然環境等が課題

交通や買い物の便利さについての満足度が高い一方で、生活道路や防犯など安全性、緑などの自然環境、高齢者や障害者等の暮らしやすさへの不満度が高くなっています。

【生活環境の満足度について】



プラン作成にあたっては、将来を担う小中学生からも意見をいただきました。

広報よこはま 南区版
2002年(平成14年) 12月号 No.62

発行部数：【区】196,366
【市】86,529
(平成14年11月1日現在)

発行所：【区】196,366
【市】86,529
(平成14年11月1日現在)

編集・発行 南区役所広報課 電話 232-0019 南区花之本町3-48-1 電話 743-8121 FAX 721-6641

1年生のグループが学習の成果をまとめた『20年後の南区は』

社会科の学習で20年後の南区について考えてくれた六ツ川中学校の生徒たち。学習の成果を学校新聞や冊子にまとめ、文化祭などで展示発表しました。

特集 みんなで考えよう 20年後の南区

～都市計画マスタープラン南区プラン～

あなたがこの南区に住み続けるとしたらどんなまちになってほしいですか。現在南区では、おおむね20年後の望ましいまちの姿と、それを実現するための方針を定める「都市計画マスタープラン南区プラン」を策定しています。区民の皆さんの意見を聞きながら、よりよきまちづくりを進めていきたいと思います。皆さんと一緒に20年後の南区を考えてみましょう。

目次

- 1～3 みんなのお考え
- 4～7 今年秋のまちづくり
- 8 今年秋のまちづくり
- 9 今年秋のまちづくり

【広報よこはま 南区版 平成14年12月号】

特集 みんなで考えよう 20年後の南区

～都市計画マスタープラン南区プラン～

区民の皆さんの意見

～14年2月に実施したアンケートより(有効回答3,000票、回収率16.5%)～

【特別に多かった項目】

- ① 自然環境の保全(21%)
- ② 交通安全性の向上(15%)
- ③ 生活環境の向上(12%)
- ④ 防災・防犯の向上(10%)
- ⑤ 子育て環境の向上(8%)
- ⑥ 高齢者生活の向上(7%)
- ⑦ 緑化の推進(6%)
- ⑧ 防災・防犯の向上(5%)
- ⑨ 子育て環境の向上(4%)
- ⑩ 高齢者生活の向上(3%)

【特別に多かった項目】

- ① 自然環境の保全(21%)
- ② 交通安全性の向上(15%)
- ③ 生活環境の向上(12%)
- ④ 防災・防犯の向上(10%)
- ⑤ 子育て環境の向上(8%)
- ⑥ 高齢者生活の向上(7%)
- ⑦ 緑化の推進(6%)
- ⑧ 防災・防犯の向上(5%)
- ⑨ 子育て環境の向上(4%)
- ⑩ 高齢者生活の向上(3%)

【特別に多かった項目】

- ① 自然環境の保全(21%)
- ② 交通安全性の向上(15%)
- ③ 生活環境の向上(12%)
- ④ 防災・防犯の向上(10%)
- ⑤ 子育て環境の向上(8%)
- ⑥ 高齢者生活の向上(7%)
- ⑦ 緑化の推進(6%)
- ⑧ 防災・防犯の向上(5%)
- ⑨ 子育て環境の向上(4%)
- ⑩ 高齢者生活の向上(3%)

中学校での取組

「20年後のまちづくり」の一環として、区内の小中学校で、区民の皆さんと一緒に「20年後の南区は」を考える学習を行っています。各校で、子どもたちが考えた「20年後の南区は」のアイデアを募集し、それをまとめた冊子を制作しています。また、各校で、子どもたちが考えた「20年後の南区は」のアイデアを募集し、それをまとめた冊子を制作しています。

住居の声を反映

地域のまちづくりを住民とのパートナーシップによって進めるため、アンケートを実施しました。アンケートの結果、住民の皆さんから寄せられたご意見やご要望を、今年度のまちづくりの取組に反映させていきます。また、今年度のまちづくりの取組を進めるにあたって、住民の皆さんからの声を反映させていきます。

区民の皆さんの意見

～14年2月に実施したアンケートより(有効回答3,000票、回収率16.5%)～

【特別に多かった項目】

- ① 自然環境の保全(21%)
- ② 交通安全性の向上(15%)
- ③ 生活環境の向上(12%)
- ④ 防災・防犯の向上(10%)
- ⑤ 子育て環境の向上(8%)
- ⑥ 高齢者生活の向上(7%)
- ⑦ 緑化の推進(6%)
- ⑧ 防災・防犯の向上(5%)
- ⑨ 子育て環境の向上(4%)
- ⑩ 高齢者生活の向上(3%)

子どもたちからの意見

夏休みに区内を探索して区の魅力を再発見する「南でもっと元気に」(第1回)の活動が、子どもたちから、多くの意見を集めました。子どもたちが考えた「20年後の南区は」のアイデアを募集し、それをまとめた冊子を制作しています。

「南区のまちづくり」意見募集

＜おでん＞「南区役所会館南館3階まちづくり意見募集コーナー」(12月29日～31日)

● 郵送 〒232-0018 南区花之本町3-48-1
● FAX 743-8127
● Eメール minaminami@city.yokohama.jp
● 問合せ 企画課 電話 743-8127 88712-0104

4. 南区のまちづくりの課題

南区の成り立ちと現状や区民の意見をふまえ、南区の今後のまちづくりの課題を次のように整理します。

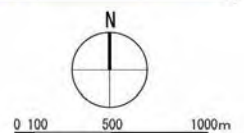
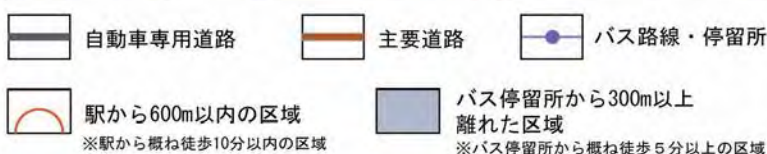
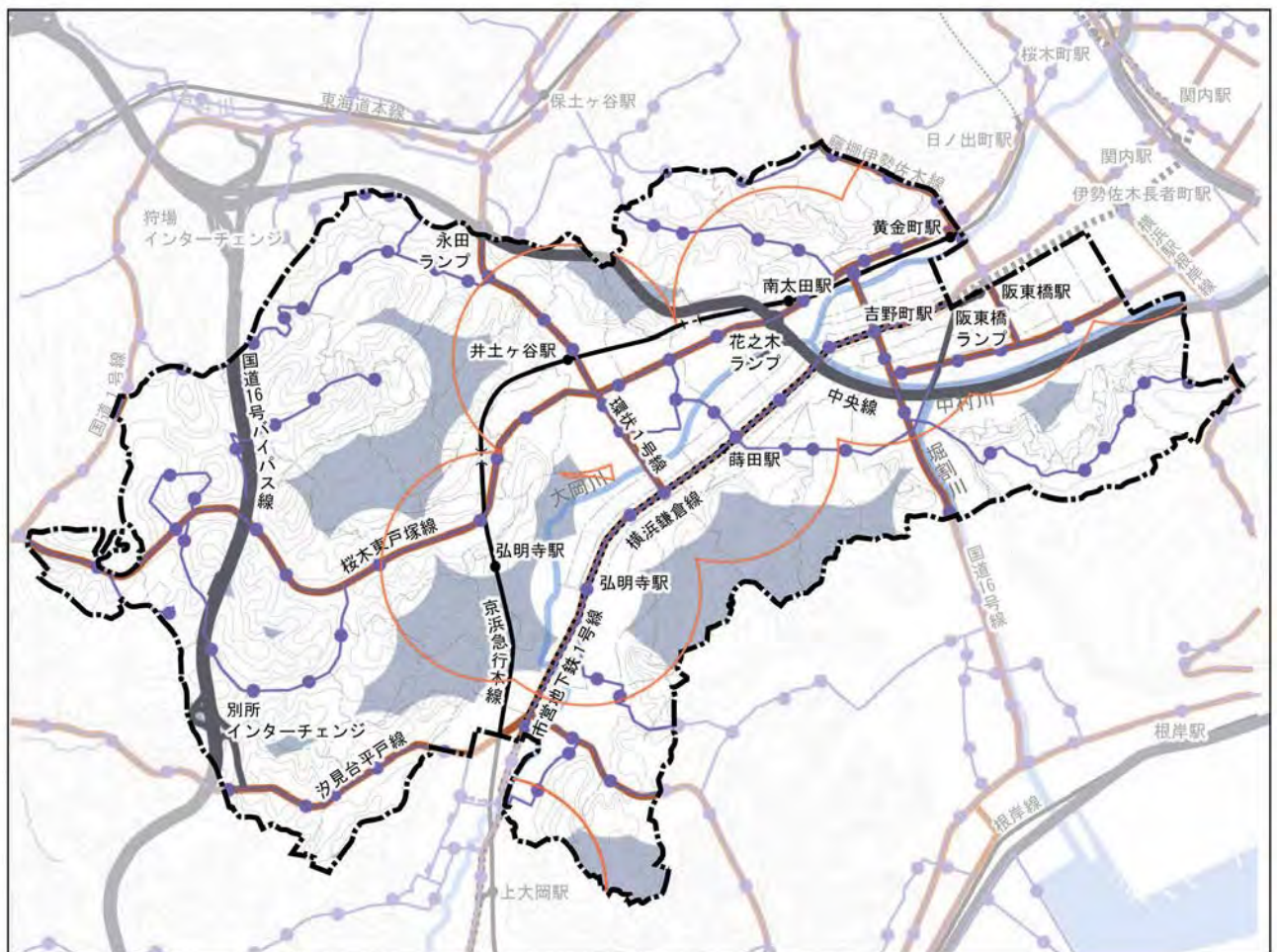
(1) 子ども・高齢者・障害者の生活を支える交通環境の充実

南区は、鉄道や幹線道路などの交通環境が比較的整っている反面、狭い道路や行き止まり道路、坂道などが多く、生活道路としての機能が弱くなっています。子ども・高齢者・障害者が日常生活を送る上での道路交通の安全性や、災害時の救援活動や避難行動にも不安のある住宅地が多くあります。

また、一部の丘陵地では地形や道路幅員の関係でバス路線がないなど、駅や公共施設等への交通アクセスに問題のある地域もあります。

さらに、駅などの交通施設にもバリアフリー(※P19)化や違法駐輪対策等の課題があります。

【(1)の課題図】



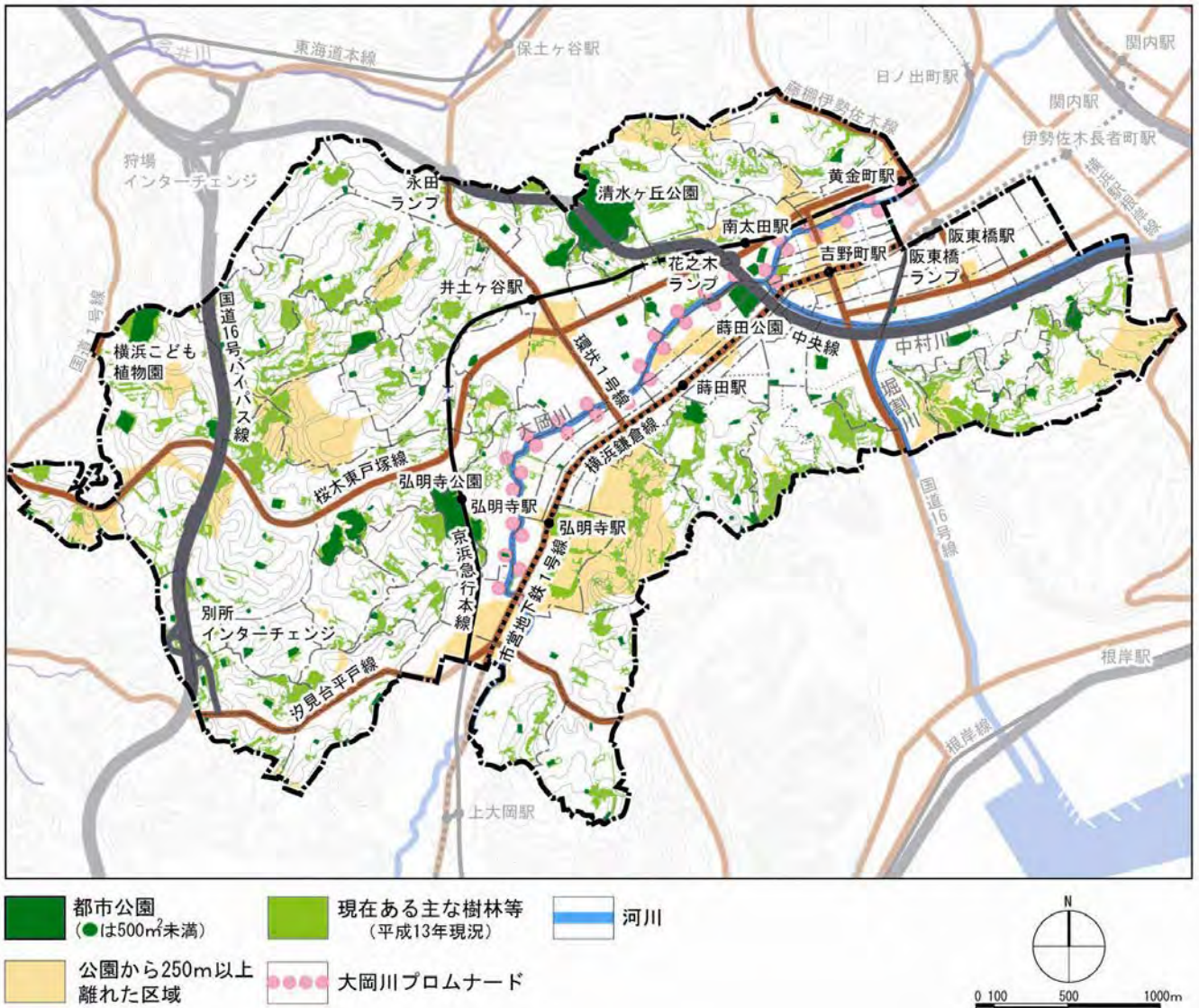
(2) 貴重な自然環境の保全と身近な自然環境の創出

南区は、横浜市の中でも水や緑などの自然が少ない区です。大岡川、中村川、堀割川の河川や、区内に残る貴重な樹林地などの自然環境を保全する必要があります。

そのため、オープンスペースの少ない区内でも、緑化を進める方法を考え、実践していかなければなりません。

さらに、公園の不足している平地部の市街地では、その整備が望まれます。

【(2)の課題図】



※バリアフリー：障害を持つ人でも地域の中で通常で暮らせる社会づくりを意味する考え方をより広げるために、身体的、精神的な障壁(バリアー)を除去しようとする考え。

II. 南区の現状と課題

(3) まちの防災性の向上と良好な住環境の維持

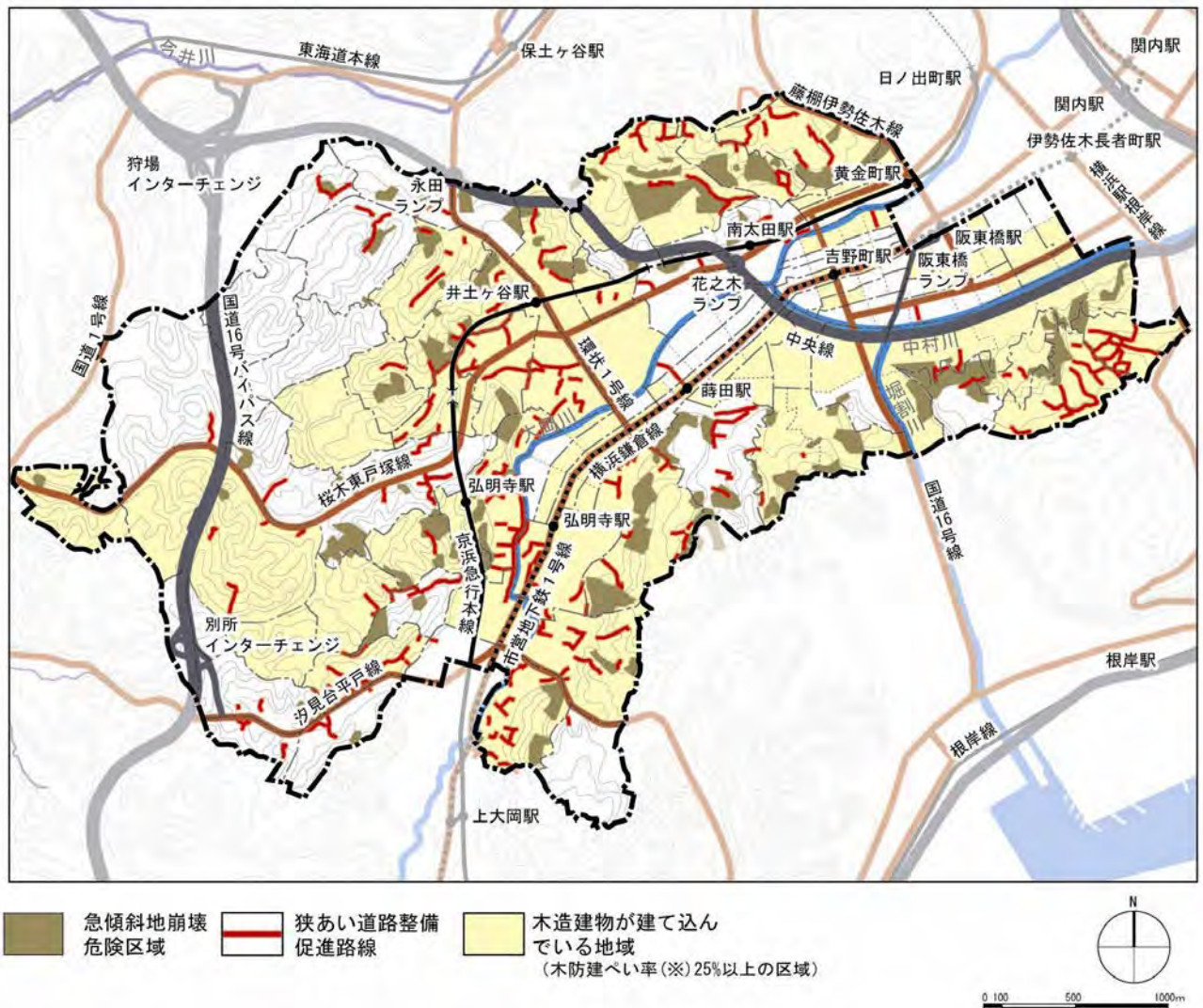
南区は市内で最も人口密度が高いまちです。さらに、平楽の丘、三春台の丘、清水ケ丘や大岡川沿いの平地部には木造住宅が密集し、道路の狭い地域が多くあります。それらの地域では、災害時の火災の延焼、消防活動の難しさ、安全な避難路の確保など防災上の問題を多く抱えています。

また、斜面地には崖地が多く、急な坂道や階段、また狭い道などもあることから、やはり防災上の課題は多くなっています。

永田・六ツ川の丘、弘明寺・別所の丘、蒔田の丘には、比較的ゆとりのあるまちなみとなっている住宅地が多いですが、建て替えの進行によって宅地の細分化が進んでおり、良好な住環境の維持に心配があります。

このような住環境の整備については、私有地の取り扱いを含むため、行政だけでなく、それぞれの地域での住民自身の話し合いや取り組みも必要です。

【(3)の課題図】



※木防建べい率：地区全体に占める木造建築物(防火造のものを含む。)の割合。

(4) 地域特性を活かした魅力づくり

南区には、日常の買い物に便利な商店街が多く、地域の生活の中心、交流の場として機能してきました。近年、大型店の進出等で全般的に商店街としての活気は衰えてきたと言われます。しかし、人々の暮らしを支える拠点であることには変わりなく、商店街をまちの財産として充実・再生することが求められています。

また、南区には、かつて職人文化ともいわれるものづくりの伝統が根付いていました。まちの魅力づくりのためには、ものづくりの文化に対する区民の関心を高めていくことも有効です。

(5) 生活の場で人々が支え合うコミュニティづくり

高齢者の割合が今後いっそう高まる時代を迎え、高齢者を地域で支え合うしくみと場の整備が急務となっています。また、ケア(介護)が必要な高齢者ばかりでなく、元気な高齢者の健康づくりや地域活動へ参加しやすい環境を整えることも必要です。

一方で、マンションが建設された地域などでは、若い子育て世代も増えています。幼児・子どもにとって安全な環境を整備するとともに、保育施設の充実や、子育てに対する地域での支援を進めていく必要があります。

【(4)および(5)の課題図】

